

多高通信

第210号 令和5年4月27日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

祝 48回生入学おめでとう!

4月10日、令和4年度入学式が挙行され、満開の桜に囲まれながら280名の新入生が多賀城高校に入学しました。入学式では、新入生代表の高島颯太さん(向洋中出身)が新入生を代表して宣誓を行いました。



翌11日には対面式・部活動紹介がリモート形式で行われ、各部の趣向を凝らした紹介動画や、生徒会執行部のスピーチ等が行われました。また、ホームルームにおける学級開きでは初々しく自己紹介する姿が見られました。

その後は、学年オリエンテーションや授業ごとのオリエンテーションを経て、通常授業や部活動が順次始まっています。互いに親睦を深め、早く学校に慣れ、多高生として学習に部活動にどんどん力を注いでもらいたいと思います。

たがじょう見聞憶活用の意見交換会

3月20日(月)多賀城市役所3階全員協議会室で、災害科学科1年生が、たがじょう見聞憶の活用に関する意見交換会を行いました。

2月7日に多賀城市総務部危機管理課の加藤様より紹介いただき、「社会と災害」の授業を通してまち歩きにむけて使用する中で、気づいたことや新しい活用の形を生徒が見出し、多賀城市に提案する形で意見交換を行いました。

高校生ならではの、かつ防災・減災・伝災を学ぶ生徒ならではの様々な活用案が提出されましたが、当日は代表の3テーマを発表しました。多賀城市総務部の皆様だけでなく、市民活動サポートセンターや包括支援センター、社会福祉協議会などから様々な方々にもお集まりいただき、非常に活発な意見交換を行うことができました。さらに多賀城市長様にも発表を聴いて頂き、防災・減災・伝災においても次代を担う高校生に対して温かく力強いお言葉を頂戴しました。



な方々にもお集まりいただき、非常に活発な意見交換を行うことができました。さらに多賀城市長様にも発表を聴いて頂き、防災・減災・伝災においても次代を担う高校生に対して温かく力強いお言葉を頂戴しました。

トルコ大使館にて

募金を手渡しました!

3月30日(木)、災害科学科2年生の2名が在日トルコ共和国大使館を訪れ、外交官の方に自分たちで集めた募金を手渡しました。

この募金は、トルコ南東部を震源とする地震の義援金として、災害科学科の生徒たちが自ら企画・実行し、多くの方々のご協力をいただきながら集めたものです。

生徒たちは、東日本大震災の時にトルコ共和国から

ら救援隊の派遣や支援物資など多くの支援をいただいた恩返しの意味を込めて、震災から12年目の3月11日に三井アウトレットパーク仙台港や万灯会の会場である多賀城駅前募金活動を行いました。災害科学科で学ぶ自分たちの思いだけでなく、募金に協力していただいた多くの方々の思いを届けるとともに、長期的な支援につなげたいという考えから、今回、トルコ大使館に直接訪問しての募金贈呈にいたしました。

「ご対応いただいた、一等参事官のジェミル・ウフツク・トルル氏には、「何よりもトルコのことを考え、支援をしようとしてくれた思いが力になる。さらに今回の募金を企画したのが、高校1年生であることが非常に大きな精神的な支えになり、日本の防災への意識の高さ・防災教育の素晴らしさを感じる。」とお言葉をいただきました。一日も早く平穏な生活に戻られることを心からお祈りいたします。



が非常に大きな精神的な支えになり、日本の防災への意識の高さ・防災教育の素晴らしさを感じる。」とお言葉をいただきました。一日も早く平穏な生活に戻られることを心からお祈りいたします。

語学研究部

キリバスと交流!

3月28日(火)に、本校のアイリスホールにて、キリバスのサクレッドハート高校とオンライン交流を行いました。これは、「キリバス民間ユネスコ協会設立支援プロジェクト」を実施している仙台ユネスコ協会のご協力で、学校間交流としてのESD/SDGs活動、多文化共生社会の学びのために行っていただきました。通訳としては、日本キリバス協会



の小野ジョン正雄さんと、キリバス在住のジョングアニータ夢海さんが、生徒の英語交流を基本にしつつ、英語とキリバス語で補足しながら通訳と進行をしていただきました。本校の部員は、これまでキリバスについての事前学習をおして、少しずつ違いや共通点、環境問題等に気づいていきました。今回は、両校の生徒にとって初めてのオンライン交流であり、文化の違い、環境の違いだけでなく、地球が抱える共通の問題等に気づくことができました。今後はこれらのことをもっと話し合っていきたいと思っています。

【生徒の感想】

■2年1組 渡辺 夏凜 (高崎中出身)

Zoomを通じて直接話を聞くことができる貴重な機会でした。お話以外にも、所作や雰囲気から多くの文化の違いが見て取れました。特に両国の災害について詳しく情報交換をすることができ、日本では大きな問題にはならないことがキリバスでは問題になることを知ることが出来ました。

■2年1組 中村 優琴 (塩釜第二中出身)

お互い公用語ではない英語を使っていたけれどキリバスの生徒さん達が堂々と話している姿は強心がかれました。一方私は文法や発音を気にしすぎて正しいかどうか、恥ずかしい発音ではないかを気にしすぎてしまっていました。今ではインターネットが完全と言えるほど普及して、海外の人とコミュニケーションを取ることでツールも増えていきました。私達はこの便利なツールを宝の持ち腐れにならないよう活用していくべきだと思います。